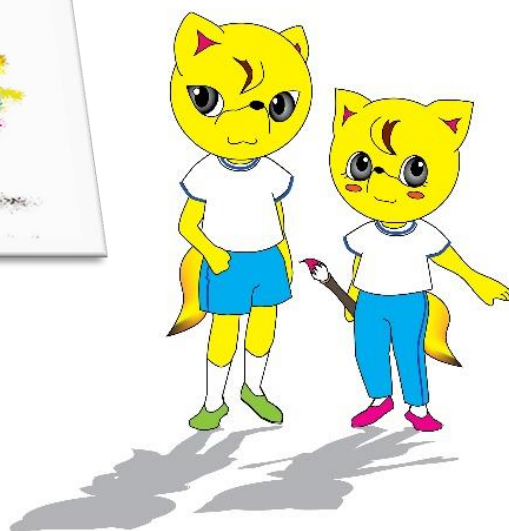
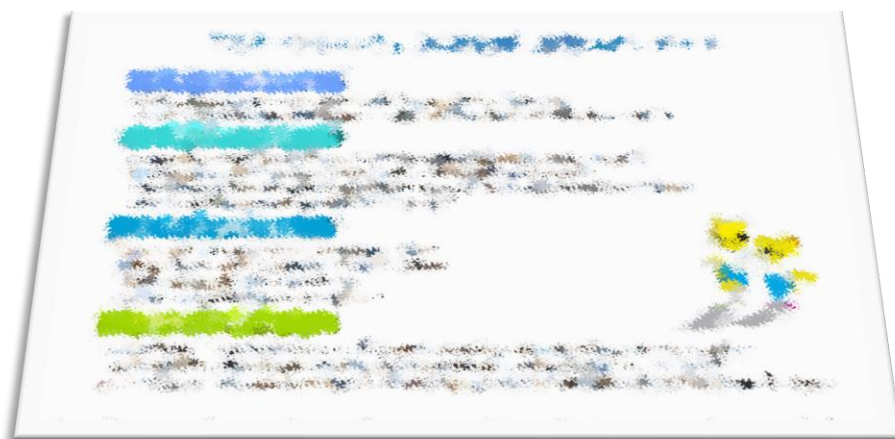


令和6年度和泉支援学校

実践報告集 資料

「和泉支援授業スタンダード実践例集」



目次(項目をクリックするとそのページへジャンプします)

## 1. 安心できる教室環境

- [\(1\) 子どもが授業に集中できるように刺激を減らしている](#)
- [\(2\) 子どもの動線が確保されている](#)
- [\(3\) 子どもの特性や見え方、子ども同士の相性を考えた座席配置や教員配置になっている](#)
- [\(4\) 失敗や、間違っても大丈夫な、安心して授業に参加できる、発言やチャレンジできる雰囲気づくりをしている](#)
- [\(5\) その他](#)



## 2. 分かりやすい授業

### 【01\_国語・英語】

- [\(1\) 学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している](#)
- [\(2\) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意識している](#)
- [\(3\) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している](#)
- [\(4\) その他](#)



### 【02\_算数・数学】

- [\(1\) 学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している](#)
- [\(2\) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意識している](#)
- [\(3\) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している](#)
- [\(4\) その他](#)

### 【03\_理科・社会・生活】

(1) 学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

(2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意識している

(3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

(4) その他

### 【04\_音楽】

(1) 学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

(2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意識している

(3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

(4) その他

### 【05\_美術／図工】

(1) 学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

(2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意識している

(3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

(4) その他

### 【06\_保健体育】

(1) 学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

(2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意識している

(3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

(4) その他



## 【07\_職業・家庭科／作業】

- (1) 学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している
- (2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意識している
- (3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している
- (4) その他

## 【08\_道徳】

- (1) 学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している
- (2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意識している
- (3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している
- (4) その他



## 3. 伝わる教員の発信

- (1) 声の大きさ、話すスピードやタイミングを意識している。
- (2) 指示や説明、発問の工夫
- (3) 視覚的にわかりやすく提示している。
- (4) その他

## 4. 協力できるチーム

- (1) 指導略案などを活用して、サブ担当者に授業のねらいや内容、教員の動きを共有している。
- (2) 学年会や担任とのやりとりなどで子どもの情報（特に支援が難しい、集中が続かないなど）を共有している。
- (3) その他



## 1. 安心できる教室環境



### (1) 子どもが授業に集中できるように刺激を減らしている。

- ・掲示物(カードなど)を貼るとき、マグネットが弱くて落ちると集中が途切れるため事前に確認する。(小)
- ・正面がシンプルになるようにしている。刺激となるものを減らすため目隠し用の白い布を使用。(小)
- ・ティッシュなどの必要なものは近くに置いておく OR ポケットに入れておく。(小)
- ・カレンダーや写真カード等を片付けている。本やおもちゃなど児童の注意が逸れるものはカーテンで隠している。(小)
- ・授業に使用するものでも、後半に使うものなどは見えないようにしている。(小)
- ・他クラスの教員にも確認をしてもらい、不必要なものがないようにしている。(小)
- ・黒板には必要以上のことは書かず、ルーティン化している学習活動は板書しない。(中)
- ・黒板にあるものは外せるものや消してよいものなど、可能な限り外す。必要な教材以外は、箱に入れて見えないようにしている。(中)
- ・ホワイトボードは授業で全面活用するように、クラス担任と話をしている。(中)
- ・コンセントの位置によりTVを置く位置に限りがあるため、生徒に確認しながら角度を調整している。(光、反射も考慮)(中)
- ・他学部や特別教室を使用しているが、基本的に刺激は減らし、片付いた環境である。気になって触る生徒がいるので、GIGA iPadは使用時のみ配布している。(中)
- ・太陽の位置や背景を考え、できるだけ集中できるように工夫している。(中)
- ・教室の前後を使い、黒板とモニターを使い分けて課題の切り替えと生徒の気持ちの切り替えを行う。(中)
- ・準備物は必要な時間になったら渡す。全部出してもじっと待てるように説明する。(中)
- ・TVを使用するときには、生徒自身に見えるかどうか確認しながら位置を決定している。(高)
- ・グラウンドに面した教室のため、体育等でグラウンドにたくさん人が出てきているようなときは、カーテンを閉めて視覚的な刺激を減らすようにしている。(高)
- ・プロジェクターを使用し、ホワイトボードに提示した教材に直接マーカーペンで記入して示すなど、わかりやすくしている。(高)
- ・基本的には授業で使用するものは一つの場所に整理し、整っている状態にしている。(高)
- ・第一美術室は、教科性からモノが多すぎて毎年見直しをし、教員も生徒も片付け断捨離をし、ようやく最近になって壁が見えるようになってきた。(高)
- ・窓に行きたがる生徒がいるので、プラダンで窓を隠している。(高)



## (2) 子どもの動線が確保されている。

- ・活動場所を広く使えるよう、座席位置や教材の置き場を工夫している。(小)
- ・机やいすを教室の隅にまとめ、活動できる空間を確保するとともに、けが等がないようにしている。(小)
- ・事前に動きのシミュレーションをして、話し合いの時間を教員間でつくっている。(小)
- ・活動中に児童の移動が多くならないように座席や教材の配置を考えている。(小)
- ・前に出る活動がしやすいよう、机の距離をあけている。(小)
- ・待機している児童の座席から活動している様子が見えるような配置にしている。(小)
- ・教員机へ課題などを提出する、TVや各生徒席など一か所に集まるなどの動線が確保されている。教室前方や各座席で発表する生徒の方向へ椅子を向けたり移動したりできる教室配置になっている。(中)
- ・取り組むべき課題を生徒の座席より前で実施している。そのため、取り組む生徒は教室前方で取り組み、待機生徒も取り組んでいる様子を見ることができる。(中)
- ・子どもが交代するときにつつからないよう、対戦する順番や座る位置を工夫している。(中)
- ・机の間隔が適度に空いている。(中)
- ・日直の生徒が前に出やすいように、日直用の机を前に置いている。ファイル、iPad等を提出、取りに行くなど、動きやすい机の配置にしている。(中)
- ・子どもが黒板まで移動することができるように、ルートを確認する。(高)
- ・目的になる場所や立ち位置には、必要に応じて足跡マークを使用し、発表する生徒の方向へ自分で向ける仕様になっている。(高)
- ・メインの活動とそれまでの準備運動の活動場所を分けて行っている。(高)
- ・ミニコーンを使っての動線の明示。(高)
- ・通路に物を置かず、必要な道具をすぐに取りに行けるようにしている。(高)
- ・歩行が不安定な生徒がいる。指示していないが、ゴミを捨てる際に「ゴミを捨てていいですか?」と尋ねてから動くようになった。他の生徒が真似て定着しつつある。(高)



### (3) 子どもの特性や見え方、子ども同士の相性を考えた座席配置や教員配置になっている。

- ・座席を配慮している。(集中を促す、テレビや黒板が見えやすい位置、子ども同士の相性、私語、大きな声が苦手な子への配慮)
- ・活動に注目しづらい児童は真ん中、途中クールダウンが必要な児童は端、飛び出しがある児童は後方にしたり、教員と教員の間座ったりする。(小)
- ・主担がいるクラスは手薄になるため、クラスを超えて応援しあえる教員配置にしている。(小)
- ・サブの教員が児童と抜けても授業を続けやすいような座席配置にしている。(小)
- ・子ども同士刺激しあうときは、椅子は“弧”ではなく、“直線”に並べる。(小)
- ・活動のペアリングでは、顔写真で誰と一緒にするのか見てすぐわかるように事前に準備している。(小)
- ・教室外の刺激を受け取りやすい児童が真ん中に座るようにしている。(小)
- ・教員がつかないほうが集中しやすい児童は、あえてサブから距離をあける。(小)
- ・授業前に座席の位置を指定し、毎回固定にしている。(小)
- ・視力は気にしている。(中)
- ・黒板が見える座席に設定しているが、相性による座席配置にはしていない。(中)
- ・生徒の意見を聞きながら定期的に席替えをしている。(中)
- ・車いすの生徒と自傷のある生徒を隣にし、間にサブの教員がついている。メインの教員はできるだけ前にいられるようにしている。(中)
- ・作業台は3~4人が座ることができる。協力して作業ができる生徒は作業机ごとにチームを作り、作業に取り組むが、一人机のほうが集中できる生徒は落ち着いて作業ができる環境を配置する。(中)
- ・接触事案のある生徒同士の席は離している。(中)
- ・「失敗することも学びにつながっている」というメッセージを常に出している。生徒が間違った回答をしても、積極的に発言したことや考えて答えを出している過程を褒める。(中)
- ・背もたれがあると姿勢が崩れやすい生徒には背もたれのない丸椅子を使用している。(中)
- ・座席指定はせず、自分で考えて座席を決定するように促している。→自己決定の力の向上をめざす。(高)
- ・異性への関心がある生徒に関しては、距離を取り入れた座席配置にしている。(高)
- ・毎回座席を固定し、変化の少ない学習環境を設定する。(高)
- ・教室に入りにくい生徒に対しては、どの席なら入れるか尋ねてから配置を行っている。(高)
- ・一人が注目されすぎないようにしている。(高)
- ・作業終了時間を意識して伝えるようにしている。(高)
- ・グルーピングも生徒同士の相性を踏まえてかなり配慮している。常に、一つの作業終了時間を意識して大声で伝えるようにしている。(高)
- ・恥ずかしい気持ちが先立ってしまうダンスは、個々の特性に配慮した立ち位置にして参加しやすくした。(高)



#### (4) 失敗や、間違っても大丈夫な、安心して授業に参加できる、発言やチャレンジできる

雰囲気づくりをしている。

- ・教員も間違ったり、失敗したりする姿を見せる。(小)(中)
- ・できたことをその都度ほめて次につながるようにし、わざと教員が失敗してもまたやってみたらいいということを示したりする。(小)
- ・子どもの発言や気持ちを前向きな言葉で表現するようにしている。(小)
- ・答えが出ても、そのままほかの児童を当て発問している。(小)
- ・活動場所に入室することや、落ち着いて活動に取り組めない児童もいる。できたことは大いに褒める。チャレンジしている姿勢を褒めたり、スモールステップで課題を設定したりする。(小)
- ・間違ってもよいことを伝えた上、「こうしたらいいよ」等教員が代替案を提示し、できるだけ自己肯定感が下がらないようにする。(小)
- ・児童が安心して活動できるような表情や言葉がけを意識している。失敗しても間違ってもそれ以外のところを評価するようにしている。(小)
- ・マイナスな言葉は使わず、「〇〇が惜しかったね、〇〇ができていたね」とできたことを認めながら課題を一緒に確認している。(小)
- ・成功できたことがわかるように、具体的な言葉がけをしている。(小)
- ・不安な児童の場合は、クールダウンをしたのちに行ったり、難しい場合は無理に取り組んだりしなくてよいことを伝える。(小)
- ・“できた”で活動が終われるようにしている。(小)
- ・“できた”課題から次へのステップアップは慎重に少しずつ上げていく。(小)
- ・子どもの表現に対する言葉がけは特に気をつけている。(小)
- ・活動後に必ず拍手をし、「できた」を感じられるようにしている。(小)
- ・活動に対して自主的に取り組めるよう、児童の行動(視線を合わせる、立ち上がる等)を待つ、魅力ある教材選定、繰り返し取り組む活動にできるように心がけている。「やりたい人？」→自分から立ち上がる→活動する→自分で着席する。(小)
- ・描画では、描き直しができるように紙を多めに用意し、「次はもう少し大きく描いてみよう」等、意欲的に活動に取り組めるような言葉がけを心掛けている。児童が失敗と思わないような和やかな雰囲気づくりを意識している。(小)
- ・発表が苦手な子どもには、①みんなの前に立つ②文章を読む③大きな声で読むなどチャレンジしてほしいことを提示する。(中)
- ・失敗しても大丈夫であると繰り返し伝えている。間違えているところから授業は深まっていくので、むしろ間違えてほしいと思っている。また出てきた質問に関しては、あまり関係のない質問である場合には授業後に答えると伝えているがそうでない限りはできるだけこたえるようにしている。(中)
- ・できるだけ本時の体調や心理の確認ができるよう、導入は長めにしている。(中)





- ・生徒同士での教え合いの時間を設けて、教員だけではなく、周りの友だちにも気軽に声を掛け合えるあたたかい教室をめざしている。わからないときや、まちがえてしまったときはみんなで一緒にどう考えたらいいかを話し合うようにしている。コミュニケーションをたくさんとることで、発言が苦手な生徒も少しずつ積極的になってきている。(中)
- ・回答が間違っている場合、「惜しい!!」とヒントを出し、回答につなげている。(中)
- ・課題設定を高くしすぎないことで安心して取り組めるようにする。「できた」という経験を大切にしている。できないことを指摘するのではなく、現状できているところを褒める。(中)
- ・失敗しても何度でもチャレンジできるようにしている。一生懸命やろうとする姿勢を褒める。(中)
- ・作業の場合、失敗を重ねて技術が上達するので、失敗や間違いは技術向上の過程であることを普段から言葉をかけて、何度もチャレンジできる雰囲気をつくっている。(中)
- ・「どんなに失敗してもどうにかする」「どうしてもダメな時は予備の材料あるから大丈夫」と伝えている。変な木目の材料は除いて配布しているが、作業中に発見された場合は即交換。逆に、上手で調子がいい生徒には難しい材料を渡している。認められているからこそ本人もわかっている。(中)
- ・生徒の発表などを要約、簡素化して代弁したり、聞き手の姿勢を整え、拍手を促したりしている。(中)
- ・自発的な発言は多いので、授業進行が滞らない程度に盛り上げるようにしている。(中)
- ・できたものの感想や紹介をすることで自信につなげる。(中)
- ・人的環境のUDを意識し、「失敗したり、間違ったりしても大丈夫」と繰り返し伝えている。また間違いや失敗した際は、「次からはどうしたらいいのか」を一緒に考えるようにしている。グループ全体でも、できないことや失敗を非難する雰囲気はなく(指導者も間違える姿を見せる場面を設定している)、それぞれの意見をすぐ否定しないよう指導者が生徒同士の間を取りもったり、説明や言い換え、感情の言語化などをしたりするように意識している。生徒の積極的な面も少しずつ増えている。(中)
  - ・間違っても大丈夫であるといった言葉がけを行っている。一度しか取り組まない生徒もいるため、最初は1択からスタートし、取り組んだことやできたことを認めるようにしている。(中)
  - ・事前に禁止事項を出しておく。(高)
- ・「間違っているのは教室、間違っているのはテスト」というスローガンのもと、授業を展開している。わからないときは黙っているのではなく、「わからない」と言うように指導している。(中)
- ・各自の意見を発表するような場面において、自分の声で発表することができない場合には紙に書いて表出することも可能など選択肢を提示するようにしている。(高)
- ・一旦はその考え方を受け入れて、間違えた個所を丁寧に説明している。(高)
- ・順番に全員が解答できるような機会も作っている。(高)
  - ・答えに詰まったときにヒントをつけて(本人のレベルに応じて)考えを導き出せるようにしている。(高)
- ・障害特性的に落ち着きをもつのが難しい生徒が多いため、創作活動中の私語を禁止せず、

- それぞれが思うことをその場で発言できる環境をつくっている。(高)
- ・みんな違ってみんな良い、必ず具体的に良い点を言葉にして伝えている。自分ができているのか不安感から自信の持てない生徒もいるため。(高)
    - ・「やってみよう」とチャレンジしやすい言葉がけをするようにしている。(高)
  - ・選択肢を与えて答えやすい質問、発問をする。生徒たちとやりとりをしながら板書をしていき、その後のプリントの取り組みでは黒板を見たら答えがわかる、といった形で進める。(高)
    - ・「できた」ことを意識できるように、生徒を動画撮影したものを見せたり(TV は集中して見る傾向がある)、みんなの前で披露したりする機会を設定している。(高)
  - ・できるだけポジティブなアドバイスを心掛け、生徒同士の相互評価をする際にも前向きなことを言うようにさせる。(高)
  - ・作業工程が間違えているときは、まずはその箇所を指さして示したり、必要最小限の言葉がけを行ったりして、自分で気が付くように支援することが多い。(高)
    - ・子どもたちがアクションを起こしたときは、まず“聞く”ことを意識している。(高)
    - ・生徒を指名して、発言するまである程度時間をとって待ち、自主性を促すようにしている。(高)
  - ・明るい雰囲気、失敗してもほかの生徒がフォローする形が定着している。生徒同士でけなすことが一度もない。学年カラーが穏やかである。(高)



## (5) その他



- ・整理整頓。(小)
- ・できるだけ慣れた教室、広い教室を使用するようにしている。(小)
- ・授業中、集中力が逸れるのを防ぐため、できるだけ無駄な動きがないようにしている。(小)
- ・児童の実態によっては、隣に座って落ち着いて授業に参加できるよう促しや言葉かけをしている。(小)
- ・教員の動きに無駄がないようにしている。サブにも手伝ってもらっている。(小)
- ・他害や音の刺激で不安定にならないような見守り。(小)
- ・入学後はお互いを詳しく知る紹介の機会を設けている。また導入時の「トーキングゲーム」などでお互いのことを知ったり、否定せずに話を聞いたりする機会を設定している。(中)
- ・芸術は爆発、型にはめない、独特な色を大いに褒める。(中)
- ・チームごとにゼッケンの色を変えたり、チームカラーのプレートをコーンにつけたりすることで、自分の場所を認識できるようにした。(中)
- ・集団に入れない生徒は廊下でも作業ができるように机を出すなどして環境を設定する。何度か繰り返すうちに、授業の流れを理解し、見通しがついて教室に入って作業することができた。(中)
- ・個別学習時など机を使用する学習以外は教室内の机を端に寄せて出席調べ・集団活動に取り組みやすい、動線がわかりやすい教室配置を意識している。(高)
- ・時計が読めない生徒の基礎作業の教室には、タイムタイマーを置いて授業の始まりと終わりを示している。(高)
- ・座学や教員の説明中は、私語を控えるように創作活動時間とのメリハリをつける。(高)
- ・本時の授業で使用する道具をあえて集団に見せるように置くこともある。(期待感や質問などの見通しをもたせるため)(高)



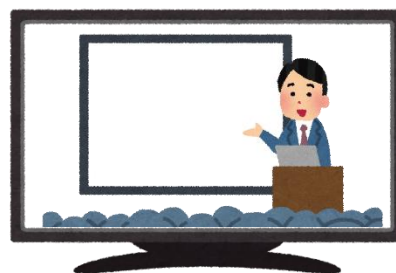
## 2. わかりやすい授業

### 【01\_国語・英語】



#### (1)「学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

- ・「めあて」と「振り返り」をつなげる（「めあて」に対して、子どもがどうだったかを具体的に振り返る。（小）
- ・書く学習（机）、手あそび（前のイス）、食べ物屋さんごっこ（前の作業机）と、どこで何をするか分かりやすく。（小）
- ・大型モニターに授業の流れを映して、終わった活動は花丸をつけている。（小）
- ・必要な情報のみ提示。（小）
- ・教科書の拡大コピーを使用。（小）
- ・生徒の実態上指示理解の力をつけるため、口頭のみで伝える場面を多く設定している。（中）
- ・基本的には、授業の流れ、本時の目標は常に見て確認できるように示している。また、今日の流れの中で「今日特に頑張るところ」の活動を示すようにしている。（本時の目標と関連付ける）（中）
- ・初めに授業の内容および予定カードに記入している。そしてその内容通りに授業を進めて、今どこの学習をしているのか、分かるようにしている。振り返りは毎時間実施している。（中）
- ・授業の流れや課題などの内容はTVや板書で視覚的に提示している。授業の始めに予定をノートに記入し、最後に振り返りノートを書く時間を設定している。（中）
- ・初めての活動に取り組む際には教員が見本を見せたり、あらかじめ用意しておいた説明動画を見せたりしながら説明をする。実際に活動を繰り返し、慣れてきたら教員が行っていた部分も生徒が行うようにして、ステップアップを図っている。（高）
- ・授業の導入の課題設定は、毎回同じ活動に取り組む。（高）
- ・今からなにをやるかモニターでその都度確認し、活動に入っていく。（高）
- ・本時の活動や個人の頑張ったところを全体で共有し、振り返る。（高）



## (2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業

### 展開を意識している

- ・興味のある「食べ物屋さん」のなかで、国・算の課題を多く設定する。(小)
- ・本物のように触りたくなる教材を用いて、具体的な操作や見立てを取り入れる。(小)
- ・机上学習のみではなく、前に出てきてする活動を取り入れている。(小)
- ・座学、買い物ごっこ。(小)
- ・講義型な場面になりがちな説明の時にも、なるべく子どもたちから発信がたくさん出てくるような発問をしたり、説明などはとにかく端的に伝えたり、活動や発表の時間をたくさん設定している。(中)
- ・発表したりアウトプットする時間を多く設定したりしている。また学習内容は日常生活に結びつけて指導している。(中)  
(例) 英語→使われている場面を紹介 理科→日常で起きている化学変化を紹介
- ・集中して聴ける時間が短いので、ことばあそび(シャッフル言葉、さかさ言葉)やゲームを取り入れた教材や、まちがいさがしプリントなど、短時間で集中して取り組める教材を入れるようにしている。(中)
- ・「話す」活動を50分の授業の中でできるだけ入れるようにしている。感想を述べる、予想して発表する、話し合う、ペアで活動する、フラッシュカードで発声するなどの場面を設定し、できるだけ自分の言葉で気持ちや考えを相手に伝える活動を行った。こういった自己開示する経験が自己受容に繋がると考えている。(中)
- ・「聞く」活動だけになると意欲の継続や知識の定着が難しいため、生活のなかでイメージしやすい興味関心の高い題材に焦点をあてて学習し、聞いて学んだ内容を発表したり、話し合ったり、まとめて書いたり、動いて確かめたりするなど様々な活動を取り入れている。その他、言葉だけの説明にせず、プリント、教科書、スライド、写真 NHK for School の動画など様々な伝えるための手段を活用するようにしている。(中)
- ・新聞づくりやポスター作りなどは、手書きか GIGA I-Pad を使用するかは自分で決めるよう促し、自分にあった手段が使えるよう支援した。その他、調べ学習などの際は、子ども自身が好きな題材を選択する場面をできる限り設定している。(中)
- ・プリント学習等も行いが、長い時間は集中の持続が難しい場面もある。そのため、学習した内容を実生活で活かすことができたり、より興味関心を持たせたりするために、ロールプレイ的な活動や、作業を伴うような活動を取り入れている。また、生徒の個別の課題に合わせて回答やロールプレイの役を指名するようにしている。(中)
- ・iPad の使用で漢字学習を行っている。(高)
- ・苦手とする課題かを考え、他のアプローチができる課題も用意する。(高)



- ・活動に合わせてBGMを設定し、活動の終始を言葉だけでなく音楽でも分かるように設定している。授業ごとに実態を見直し、その都度内容の調整を行っている。(高)
- ・運筆活動では、それぞれの実態に応じたワークシートを準備し、ことばや数字の学習では文字ボードを使用するなど、どの生徒も積極的に取り組める教材準備を行う。(高)

### (3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

- ・自分がやりたいことを伝える場面の設定。(小)
- ・「できた」と大人と共有する経験。(小)
- ・選択する機会の設定。(小)
- ・生活の中ですぐに使える内容を課題に設定し、繰り返している。(小)
- ・質問されたことに答えるなど日常生活で必要になることを題材にしている。(小)
- ・座学、買い物ごっこ。(小)
- ・生活の中ですぐに使える内容を課題に設定し、繰り返している。(小)
- ・たくさんのかんことを学習する理由として、生徒の選択肢を増やすことが目的であると説明している。また社会に出たときに〇〇は知らないかと恥ずかしい、地域の学校でも勉強していることの説明もしている。(中)
- ・授業はみんなの協力のもと成り立つことを初めに伝えて、自分たちで役割を分担するよう促し、授業の準備や片づけを生徒に行ってもらうようにしている。集団における役割を理解し協力する姿勢を養っている。その他、授業終わりの振り返りノートは、今日のめあてができたかどうかを中心に、自分の学習を振り返ることで、反省や次回への授業への抱負が書かれるようになってきた。(中)
- ・中学部3年間で、自分や友だちの長所や短所に気づき、互いの個性として認め合う仲間づくりをめざし、「自分探検」という教材で定期的に自己理解できるよう学習している。(中)
- ・グループ学習が5教科の合科学習であることから、できるだけ他教科と関連づけて学べるよう工夫し、学校生活や家庭生活に生かせるよう意識した質問や内容にするようにした。また、1学期は、道徳の防災学習と同時期に国語の授業で「メモの取り方を知ろう 防災新聞作り」で先生方にインタビューし新聞を作る。2学期は、道徳のスマホの使い方学習と同時期に数学の授業で「変化と関係(データの活用) スマホアンケートを作ってグラフを読み取ろう」の単元を学習し、学年の生徒たちに分析結果などを発表する。その後、国語の授業で「話し合いをしよう スマホのメリットデメリットについて」のディスカッションを行い、道徳で学んだ知識をさらに深めるといった教科横断的な学びを意識して取り組んだ。(中)
- ・自立活動の課題となる部分を意識して課題の設定を行っている。例として、コミュニケーションに課題のある生徒に人とのやりとりを主とした課題を設定するなど。また、実生活に活かすことができるように場面を想定した取り組みを多く行っている。(中)
- ・カレンダー学習において社会生活において必要な見方を習得できるように、少しずつステッ

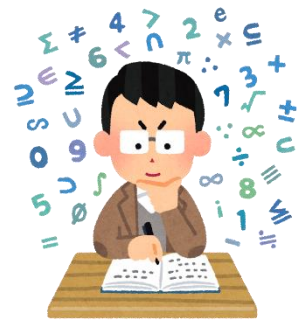
- プアップしている。(高)
- ・あいさつ、報連相について取り組んでいる。(高)
- ・自分の名前を漢字で認識できるようにカードの並べ替えを活動内容として取り組んでいる。(高)
- ・挨拶を行う際に姿勢を正すようにその都度言葉かけを行い、定着に繋がってきている。(高)
- ・日常生活や卒業後に向けて手先の巧緻性を高めるために指先、手元を見て行う作業も活動の中に取り入れ、実態に応じてその都度内容の調整を行っている。(高)
- ・手紙の学習では、お礼状や年賀状の話もして、将来的に必要なであろう知識を身につけられるようにしている。(高)
- ・カレンダー学習において社会生活において必要な見方を習得できるように、少しずつステップアップしている。(高)
- ・あいさつ、報連相について取り組んでいる。(高)
- ・場面緘黙の生徒には、ワークシートが完成したらベルを鳴らすなどの合理的配慮を行い、報告の意識付けを行っている。(高)



#### (4) その他

- ・友だちの作文などのプリントを本人の了解を得てスライドに写し、いいところをみんなに示したり、訂正箇所を示して正しい表現を一緒に考えたりするようにしている。(中)
- ・他の授業で発表したり、インタビューしたり、ポスターを掲示したりするなど具体的な目標や役割を示すことでより意欲をもって授業に取り組めるよう工夫している。(中)
- ・作文は原稿用紙に書く前に、はじめ、なか、おわりの3部構成で大まかな内容を考えてから、文章を書くようにしている。Google ドキュメントなど GIGA タブレット端末の文書編集機能を使用すると、文書の入れ替えや内容の加筆修正が手軽にできるので活用している。(中)
- ・作文指導は、『これで書ける!サクサク作文サポート小学校編(阿部利彦・東洋館出版社)』を参考にしている。(中)





## 【02\_数学／算数】

### (1) 「学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

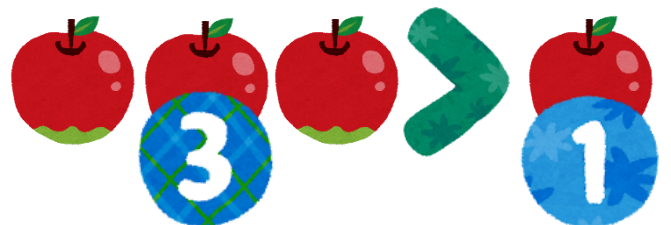
- ・予定カードで本時の流れが分かるようにしている。(小)
- ・各活動に取り組む前に「頑張りポイント」を伝えている。(小)
- ・振り返りは活動ごとに行い、褒めたりよかったところを伝えている。(小)
- ・活動の題材が変わっても、授業の流れが変わることのないようにしている。(小)
- ・授業の流れを視覚的に示している。(小)
- ・見本を見せてから活動に入ることで、児童に今から行うことへの見通しを持ってもらえるようにする。(小)
- ・授業の流れをホワイトボードに示し、今取り組んでいる活動が分かるように矢印などで横に示したり、活動が終わるごとに外して「おわり」が分かるようにしたりしている。(中)
- ・生徒の実態に合わせて、最後の振り返りはまとめる程度にし、ひとつひとつの課題ごとに良かった点を伝えるようにしている。(中)
- ・あいさつの前にプロジェクターで授業の流れを映し出し、説明している。挨拶の前から授業が始まる意識を持てるようにすることと、あいさつも大事な活動であると意識できるようにしている。終了した活動は線を引き、切り替えができるようにしている。(中)
- ・科目の大きなめあて、今日のめあてを明確にしている。どこを理解したらいいのか、安心もつながると思う。たとえば数学では、「式を立てる」「今日は割り算」というふうになっている。掛け算や割り算は自力ではできなくても、計算機を使えるようになればいいので、「式をたてる」ことが大切なんだよ、と伝えている。(中)
- ・課題を三部構成にして集中を持続させる。(中)
- ・授業の最初に、今日の学習の流れを示している。(高)
- ・授業の導入の課題設定は、毎回同じ活動に取り組むようにしている。(高)
- ・今から何をするかモニターでその都度確認し、活動に入っていく。(高)
- ・本時の活動や個人の頑張ったところを全体で共有し、振り返る。(高)



### (2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業

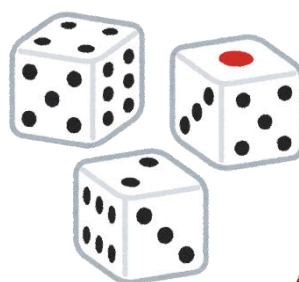
#### 展開を意識している

- ・グループ内で児童の実態差があるため、個別課題を設定している。(小)
- ・身近なものの教材を作成し、具体物を操作しながら「数える」「比べる」の課題を設定している。(小)
- ・児童が好きなもの(ジュースや果物)を題材に用いて、数の概念や多い少ないを勉強できるようにしている。(小)





- ・絵本をもとに活動内容を考えることで、絵本→活動がつながりを感じたり、取り組みやすくなったりするようにしている。(小)
- ・出席調べでは、ひらがなカードを並べて名前を完成させたり、文字をなぞったりするなど複数の課題を設定している。(小)
- ・数や長短大小などの概念を視覚的に確認できるように、イラストを用いたり具体物を操作したりしながら児童と確認するようにしている。(小)
- ・しりとり課題では、自分の持っている語彙からつながる言葉を探すとともに、言葉図鑑を用いることで、語彙を広げたり言葉のイメージを持てるようにしたりしている。(小)
- ・手遊びから、あいさつにつなげることで自然と座っている状態や姿勢を作るようにしている。(小)
- ・ゲーム要素を取り入れたり、買い物ごっこのような実生活に合わせた要素を取り入れたりすることで、児童の興味を誘い主体的に活動できるように題材を設定している。(小)
- ・調べ学習で分かったことを用紙にまとめ、発表する時間をとる。(中)
- ・生徒の実態に合わせて、絵本の読み聞かせでは「座って見る・聞く」、色分けの課題では「前が出る」、短時間の休憩を挟み「気持ちを切り替える」、最後は散歩に出て「身体を動かしつつ」、形のマッチングを行っている。(中)
- ・一桁の足し算では、「サイコロを振る→出目の数だけボールを筒に入れる→数を書く→英語の単語を貼る→3回繰り返して合計する→英語を読む」のような課題で数唱と数の一致を学習している。(中)
- ・座学で「聞くだけ」「読むだけ」にならないように、「書く」「話す」を必ず活動に入れるようにしている。(中)
- ・iPadを使用した調べ学習、カメラを活用した活動なども取り入れている。(中)
- ・運筆活動では、それぞれの実態に応じたワークシートを準備し、言葉や数字の学習では文字ボードを使用するなど、どの生徒も積極的に取り組める教材準備を行う。(高)
- ・商品カード(買い物学習、割引計算などに活用)やピザの絵を等分したもの(分数)、面積の公式を説明するための図(平面図形)など、視覚的にわかりやすい教材を作成している。(高)
- ・金魚釣りゲーム(高)
  - ①金魚に見立てたくるみボタンを、釣り竿で釣る、釣った金魚を片手で外す、かごに入れる。目的・実態に応じて金魚の配置をばらけさせたり、固めたりして調整する。教員のスタートの合図で活動を始める。
  - ②金魚を黒板の自分の表・マス内に貼る。貼る際には教員の声に合わせて一緒に数を数える。



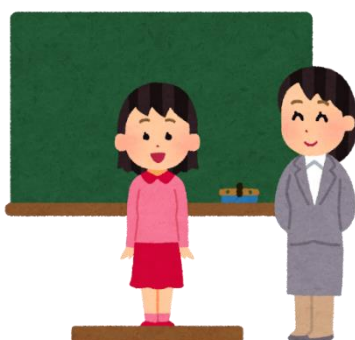
### (3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

- ・身近な食べ物などを題材にすることで学校生活や家庭生活につながる内容にしている。(小)
- ・視覚的な情報だけでなく、あえて言葉のみの指示を行うことで聞く力や聞いて行動する力につながるように課題を設定したり、提示する情報の選定をしたりしている。(小)
- ・自立活動の目標は学年で共有しているため、意識して言葉かけをするようにしている。日常生活に生かせるように実例を出して説明するようにしている。(中)
- ・数学の数の学習や、将来につながる軽作業を取り入れながら授業を設定している。また、お金の学習では、店員と客に分かれて買い物の練習を通して、お金のやりとりを実践している。(中)
- ・時計やお金の計算など生活と関連した内容を意識し、授業内容を計画している。かけ算やわり算なども具体物を使い、暗記で終わるのではなく生活の中で活用できることを目標にしている。(中)
- ・場面緘黙の生徒には、ワークシートが完成したらベルを鳴らすなどの合理的配慮を行い、報告の意識付けを行っている。(高)
- ・『ひとりだちするための算数・数学(日本教育研究出版)』や『暮らしに役立つ数学(東洋館出版社)』の教科書を使いながら、学力が生活に生かせる力に結びつくように考えて取り組んでいる。(高)
- ・自分の名前を漢字で認識できるようにカードの並べ替えを活動内容として取り組んでいる。(高)
- ・挨拶を行う際に姿勢を正すようにその都度言葉かけを行い、定着に繋がってきている。(高)



### (4) その他

- ・かけ算、わり算、小数や分数など抽象的な内容は、図や具体物などを活用し視覚的にイメージできるようにしている。(中)
- ・人前で発表する機会を作り、実習後などそういう機会が多くなることを伝え、練習として行う。(高)





## 【03\_理科・社会・生活】

### (1)「学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

- ・TV を使ったり、イラストと文字、動画を用いたりして活動をわかりやすく伝えている。(小)
- ・実際に見本を見せて活動手順を示している。(小)
- ・前のホワイトボードには必要な情報だけを提示している。(小)
- ・実態に応じてステップアップ課題を用意している。(小)
- ・繰り返し取り組むことで、より主体的に取り組むようにしている。(小)
- ・振り返りでは、活動内容がわかるイラスト付きの予定カードを提示し、言葉で伝えることが難しい児童が指差しても伝えられるようにしている。(小)
- ・授業の流れをホワイトボードに書き、一つ終われば消している。(中)
- ・話だけでも一定理解はできるが、ボードで全体の流れを視覚的にも提示することで見通しをもちやすくしている。メインの学習では、内容によってTVにスライドを映して理解を促している。(中)
- ・授業の流れや課題などの内容はTVや板書で視覚的に提示しているが、生徒の実態上指示理解の力をつけるため、口頭での説明で伝える場面を設定している。毎回の授業の流れは変則的であるが、授業の最後5分は振り返りノートを書く時間に設定しており、生徒が「先生振り返りノートの時間やで」と伝えるなど授業の見通しは持てているようである。(中)
- ・授業の最後に、「教室に戻ったら、担任の先生に今日は〇〇をした」と言いなさいと伝えて終わるようにしている。(中)



### (2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業

#### 展開を意識している

- ・実態に合わせて内容を絞り、精選している。(小)
- ・ストーリー性のある授業を展開し、注目を促せるようにしている。(小)
- ・導入で動画の視聴をしてから、活動に取り組んでいる。(小)
- ・アクティブラーニングのため、動きの少ない児童のために課題を用意している。(小)
- ・講義型ではなく、なるべく子どもが体験したり、活動したり、発表したりする場面を設定している。GIGA iPad を活用した作文やインターネット検索、スライドづくり、NHK for School などの動画、振り返りノートをよく活用している。生徒による課題取り組みの実態やスピードが異なる場合には+αの別課題の用意や、個別の配慮(素早く文章を書くのが苦手な子はGIGA iPadを使用するなど)をしている。調べ学習などの際は、子ども自身が好きな題材を

選択する場面を設定している。生徒の作品（作成したスライド）などは廊下に掲示し、教員や友だちから声をかけてもらい成果を実感する、本人が内容について説明する機会につなげている。（中）

- ・カタカナの学習（国語）からスタートしたが、そこから少しでも子供が意欲的に学習できるように食べ物に焦点を絞り各国の料理としてつなげ、国旗の色塗り、国名と地理へつなげていった。それをシリーズものとして20数か国取り組んだ。（中）
- ・修学旅行に向け、動物の生態を学びながら、カタカナや塗り絵に繋げている。（中）
- ・課題の進度に差があるため、余暇活動のようなプリント（塗り絵、間違い探しなど）を用意し、早く課題が終わっても取り組めるようにしている。その際には、プリントか休憩をとるか、本人の体調に合わせて自己選択できるようにしている。（中）
- ・生徒が作業したり、体験したりする場面を設定するようにしている。授業のはじめに出席確認の流れに天気確認や温度計読みを入れるなど、自分で取り組み達成しやすい課題を設定している。（中）
- ・実際に教室の外で自然観察、社会観察する活動を設定し、適宜各自のタブレットPCで写真を撮り、学習に活用できるようにしている。（高）

### (3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

- ・運動遊びでは、普段しない動きを取り入れている。（小）
- ・自分自身の体に注目するようにしている。（小）
- ・仕事・役割・当番を意識して伝えている。（小）
- ・手本に注目することや模倣することを通して、自分から遊びに取り組むことができるようにしている。（小）
- ・全体で取り組む活動（待ち時間を短くする）と、順番にクラスごとに前へ出る活動（短時間の待ち時間を経験するため）の両方を設定している。（小）
- ・担任と連携を取りながら、個々の課題の共通理解や授業での様子を情報共有している。（中）
- ・ゆっくりと話すことが自立活動の目標として設定されている生徒には、内容より話し方に注力する。（中）
- ・カタカナの学習では、生徒の係活動と関連付け、給食のメニュー等を活用して教材づくりをしている。（中）
- ・知識理解だけでなく、子どもたちが選択・決定することや、聞いた・調べた情報をまとめて伝えること、ICT機器を活用すること、学習内容を振り返りすることなどキャリア教育や自立活動、日常生活や卒業後の進路の課題とつながった内容を意識して授業計画を考えて、それらと関わる内容を重点的に取り組んでいる（社会では具体的な法律の内容、お金や福祉制度についてなど）。シラバスの内容に加えて、実態に応じてSST的な内容にも取り組んでいる。子どもたちにも、学んだり取り組んだりしている内容が将来どのようにつながるのかを都度説明している（振り返りノートなどは高等部実習日誌につながるなど）。（中）



- ・一問一答形式の知識にならないように、マインドマップなどの思考ツールを活用して、多様な観点を持ち、知識を関連付けられるようにしている（例えば都道府県の調べ学習では、名物・観光名所・世界遺産・地域限定のお菓子・ゆるキャラ・駅弁・プロスポーツチーム・アニメの聖地・伝統工芸品・企業・祭り・有名人など）。（中）
- ・公民分野では福祉制度や医療や福祉、トラブル時などの相談先を伝えている。（中）
- ・授業時に毎回気温と天気を記録して、月ごとにグラフにしていく。季節の変化を理解しやすくすることで、学習内容と実生活をリンクできるようにする。（中）
- ・必ず、余暇、将来への夢、希望、欲しいもの、やりたいこと、行きたいところ、憧れをもてるようなエッセンスを入れていくことが、就労へのモチベーションになると思う。（学校生活すべての場面で意識している）（中）
- ・卒業後の進路に向けて、必要な力（集中、継続、自己理解、他者理解、協同、自己実現等）の向上ができるような課題になるようにしている。
- ・社会ニュースを取り上げて学習に繋げたり交通経路の検索や季節・天気に応じた服装などの学習をしたりして、社会人となって活用できる知識・技能を身につけるように計画している。（高）



#### (4) その他

- ・子ども自身のやりたい気持ちを大切にしている。（小）
- ・子ども自身からステップアップ課題への取り組みの意思が出た場合は、その場で臨機応変に活動順のペアリングの変更など、教員同士で確認し取り組めるようにしている。（小）
- ・子どもたちが自分の思いを振り返る、伝えるための取り組みをしている。授業最後の5分間に書く「振り返りノート」、自分で調べたい内容を考える「スライドづくり（例、都道府県調べ）」など。（中）
- ・ICT機器の活用を進めている。「Google クラウド（資料（プリント PDF）や課題（ドキュメント、Keynote）の配布）」、「NHK for School での動画資料」、「Google フォームでテスト（何度も繰り返しチャレンジできるので定着につながる）」、「アプリの活用（ゲーム感覚で繰り返しチャレンジできる）」など。（中）
- ・実際に体験することで理解や納得につなげている。「子ども六法すごろく（具体的な法律内容についてゲーム感覚で学ぶ）」「お金（1週間の昼食メニューから、すぐに増える消費額を感じる）」など。（中）





## 【04\_音楽】

### (1)「学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

- ・イラストと文字でスケジュールを提示し、終わったら課題から外すことで「おわり」が視覚的にわかるようにしている。(小・低)
- ・毎回、学習の流れ(鑑賞、歌唱、器楽、身体表現の順番など)を変えずに行う。(小)
- ・課題の前に「今日のがんばりポイント」をわかりやすく伝えて、意識できるようにしている。(小)
- ・活動が終わるごとに、振り返りと特によかった人を発表している。(小)
- ・基本的に、あいさつ、出席、リズム、歌唱、器楽または楽典、身体表現の流れは崩さないようにする。(最後にリラックスしながらの音楽鑑賞が入ることがある。)(中)
- ・授業の流れや内容はモニターに映し出す。課題が終わるごとに消して、すべてが消えたことで授業が終了したことがわかるようにしている。(高)
- ・最後に本日行ったことを振り返るとともに、次回の授業の予告をしている。(高)
- ・本時の流れは、文字の読めない生徒がわかるように、イラスト付きのカードで提示している。(高)
- ・楽曲の構造を理解しやすいように、わかりやすく構成をアレンジしたり、視覚的に提示したりするようにしている。(高)

### (2)子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開を意

#### 識している

- ・楽器を鳴らす課題のときには、初めに自由に鳴らす時間を設けることで楽器を鳴らす楽しさを味わえるようにしている。音楽に合わせて鳴らす課題に取り組む時への集中にもつながっている。(小 低)
- ・待ち時間がしんどい児童も多いので、できるだけ待ち時間を減らせるように、テンポよく交代したり、内容や前に呼ぶ順番などの工夫をしたりしている。(小)
- ・見る、聞く、ばかりにならないように、具体物の操作や体験活動などが入った内容にしている。(小)
- ・鑑賞曲で出てくる楽器を用意し実際に触ったりしている。(小)
- ・実際に、児童が歌ったり、楽器に触れたり、音楽に体をゆだねたりできる時間を多く設定している。(小)
- ・児童の実態に合わせて、同じ活動の中でも「声をだす」「歌詞をうたおうとする」「リズムにあっている」など課題を分けたりしている。(小)
- ・途中でお茶休憩をはさみ、次の活動へ向け気持ちを切り替えられるようにしている。(中)

- ・活動を複数用意(発語が難しい生徒は、タンバリンやチャイムバーで参加できるようにするなど)している。
- ・身体表現では、生徒のリクエストを募り、その曲で踊ることがある。(中)
- ・器楽合奏では、いろんな楽器を用いて、演奏の難易度(奏法・リズム・分量など)を変えている。(高)
- ・楽器ごとに演奏の手本を提示し、生徒が自ら選ぶことができるようにしている。(高)
- ・生徒の実態から集中が続きにくいいため、それぞれの活動が20分を超えないように設定している。(高)
- ・楽曲に充分に取り組み、慣れることで、独唱や発表といった主体的な表現につなげられるようにしている。(高)
- ・知識・理解や達成感に繋げるため、音源の編集や教科書の内容を分かりやすく説明した教材づくりをしている。(高)
- ・最初の授業で教科書を見たり、聴いたりして、食いつきの良かった曲を合奏や鑑賞曲に取り入れている。(高)
- ・グループワークから発表を多く取り入れている。(高)



### (3)子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

- ・小学部低学年段階なので、まず音楽に親しむことをねらいにしている。(小・低)
- ・活動内容が日常のあそびや生活に還元できるものになっているかを意識して計画している。(小・低)
- ・自分の好きな楽曲や曲のジャンルなどを見つけ、余暇活動につなげられるように言葉がけをしている。(小)
- ・学んだ曲について、授業以外で聞いたり歌ったりできる方法について紹介したり、休み時間に歌いたいと言ってくる生徒には、一緒に歌ったりしている。(中)
- ・合唱や器楽合奏など、音楽ならではの一体感や協力することの大切さを説明している。(高)
- ・授業の課題として自分の好きな曲をほかの生徒に伝えることをしている。自分の考えを伝える大切さや、興味関心があるものを知ってもらう大切さを学んでもらおうと思っている。(高)
- ・キャリアプランニング・マトリックスを意識している。(高)
  - ・集団参加2段階①集団活動に参加し、みんなと同じ活動に取り組むことができる。
  - ・集団参加3段階②集団活動における役割を理解し、協力する。
- ・達成感を感じ、一般的な知識につなげることができるような提示をしている。(高)
- ・生徒が好きそうなジャンルの音楽だけでなく、様々なジャンルについて楽曲の背景についても学び、興味・関心の幅が広がるように心がけている。(高)

#### (4)その他

・実態別グループで指導している。(高)





## 【05\_美術／図工】



### (1)「学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

- ・事前の板書計画を大事にしている。めあては特にわかりやすい言葉、掲示にしている。(小・低)
- ・黒板に授業の流れを提示し、矢印のカードを使って手順を示すようにしている。(小・低)
- ・活動を繰り返し取り組む。(小・低)
- ・手順などは視覚支援カードで文字とイラストで伝えイメージを持てるようにしている。(小・低)
- ・「がんばりポイント」として活動のねらいを1つだけ提示している。イラストや写真と「1・2・パッ」「ふーぱっ!」などのわかりやすい言葉で伝えるようにしている。振り返りは活動中の様子を見てがんばっていたところを子ども自身の発表と鑑賞に加えて伝え達成感がもてるようにしている。(小・低)
- ・手順表は、イラストと文字を載せたカードを使い、活動が終わったらカードを取ったり、次の順番がわかるように、ホワイトボードに顔写真を貼ったりしてできるだけ児童が次に何をするかをわかるようにしている。(基礎的環境整備にもなる)(小・中)
- ・授業の流れを文字と絵のカードで提示し、終わるたびに外して視覚的にもわかりやすいようにしている。図工では特に手順を提示することを大切にしている。文字と絵のカードで示すとともに、実際に手本や完成作品を見せて伝えるようにしている。(小・中)
- ・イラスト・写真・文字で活動の流れや内容を伝えている。変更していく場合は1活動ずつ変更していくなど、流れはできるだけ変えずに内容変更している。(小・中)
- ・繰り返し取り組むことで、より主体的に取り組もうとするようにしている。(小・中)
- ・見本は見せたくないが、大まかなポイントが分かるように、前で実践してみる。(中)
- ・参考作品はサブの先生方の見通しのためにも提示している。(高)
- ・描き続けてしまう生徒が多いので、TV画面に教員の手元を映し、ここまでやってみようということと一緒に制作できるようにしている。(高)
- ・課題によっては、時計の文字盤を黒板に張り付けて工程がわかるように表示している。(高)
- ・最初に、プリント学習を行ったり、動画を視聴したり、見本を見たり、制作内容に合わせて、導入の流れを少し変えつつも説明を冒頭に行うことを忘れないように心がける。(高)



## (2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展

### 開を意識している

- ・20分～30分ほどの展開にしている。(小・低)
- ・静(絵本を集中して聞く)動(絵本の内容をテーマにしたごっこ遊び)(小・低)
- ・活動順や活動内容に対しての約束・ルールなどを事前に伝える。(静かに持っているお友だちから呼びます。包丁を使うので手はおひざ、座ってみます。など)(小・低)
- ・児童が興味関心を持てるように、色紙はシンプルなものだけではなく、色を金色にしたり、キラキラの色紙を活用したりして、できるだけ興味を持てるように工夫している。(小・中)
- ・児童にとって身近なものを題材や素材として使うように意識している。(運動会等の行事の描写・栽培した野菜の描写や製作等)(小・中)
- ・児童が、体を動かして体験して活動できる内容を設定している。(小・中)
- ・具体物操作(鍋のふたを開けて、具材に入れる、かごに入れて持ち運ぶ)
- ・子どもがただ制作に夢中になれるように働きかける。(中)
- ・技法が変わるたびにメリハリがつくようにしている。(高)
- ・画材や題材へのアプローチはできるだけ子どもが感覚的に楽しいと思える材料や題材を選んでいる。(高)
- ・終了時間の何分前です。などの声掛けを行い、見通しを持たせている。(高)
- ・課題を2つ用意することで、生徒にどちらをさきにやりたいか選ばせ、主体的に取り組む時間、やりやすいことを意識させている。(高)



## (3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

- ・自分で決める場面や意思を伝える場面を設ける。(小・低)
- ・出席確認の際に児童の名前(5人分)提示し、自身の顔写真カードを貼ることができるように取り組んでいる。(小・低)
- ・身の周りにある素材を使った活動設定をし、児童がしてみようと思いやすいようにしている。生活の中で使う動作を取り入れ、言葉も一緒に伝えている。(ペットボトルを開ける→「あける」「しめる」、ビーズをペットボトルに入れる→「入れる」、おたま「すくう」「いれる」)

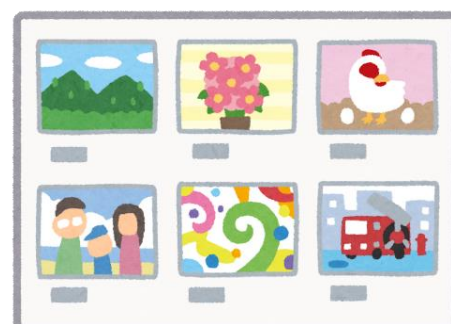
「わかる」など) (小・低)

- ・制作するための手立て、自立活動等を参考に、その児童に応じた支援をしている。(小・中)
- ・児童が自分の好きな色や素材等、自分で考えて選択ができる場面を設定している。また、児童の得意な動き(指先を使う・手全体を使う等)をより伸ばせるような言葉かけや活動を設定するように意識している。(小・中)
- ・将来や就労に向けて、一定時間着席できることや大人と一緒に安定して活動できることを重視している。(小・中)
- ・子どもの特性に応じて授業を計画している。家に飾ってもらえるような作品を作ることを目標にしている。(中)
- ・余暇の過ごし方に役立つ、生活と色や形の在り方を知る。1番は夢中になる時間が持てること。(中)
- ・芸術教科は卒業後にすぐ結果を求められるものではないが、将来の選択肢に繋がればという思いで計画している。(高)
- ・子どもたちが美術をシンプルに楽しいと感じてもらえるように努めている。今後の人生の余暇を楽しむ際にもこの記憶が大切だと考えている。(高)
- ・今後の人生において、様々な感触のものに抵抗感を軽減し触れることができるよう、経験幅を増やせるようにしている。(高)
- ・冒頭の学習にて、何が必要か、表現の手段を増やすことを伝え、家庭生活での美術活動の幅を広げることを目指している。(高)



#### (4) その他

- ・普段から朝の自立活動で学年の廊下に掲示できる作品作りに取り組んでいる。(中)
- ・情報教育とは「自分で考える力」や「感じ方」などを作るために必要な「心」や「人間力」を育てる教育だが、本校の芸術科目(高)は週に1コマしかない。府下の知っている学校は週コマある。それがスタンダードであると考えている。(高)
- ・適時、個別の説明を行い、制作内容について確認を行っている。(高)



## 【06\_保健体育】

### (I)「学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

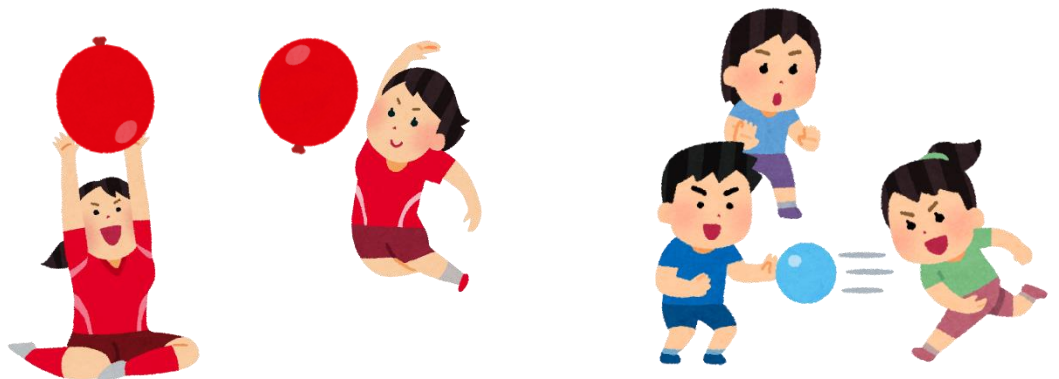
- ・リズム運動の視覚支援を1つずつ提示し、子どもが注目しやすいようにしている。(小)
- ・顔写真を提示し、順番が分かりやすいようにしている。(小)
- ・ホワイトボードには必要な情報だけを提示している。(小)
- ・児童の集中力から授業の終盤に振り返りができないことがあるので、その都度できたことなどを褒めたり、評価したりするようにしている。(小)
- ・活動の見通しを持てるよう、毎回同じ流れで行っている。(小)
- ・活動の手順表などを視覚的に示している。(小)
- ・「本時の目標(めあて)」を伝えている。(小)
- ・授業の始めに本時の流れを伝え、その時に頑張るポイントを合わせて伝えている。(中)
- ・授業中にも再度頑張るポイントを伝えている。(中)
- ・ホワイトボードに1から順に今日の予定カードを貼り、活動が終わるごとに順番にはがしている。(中)
- ・番号付きで順序を提示する。(中)
- ・達成可能な目標設定をし、振り返りでよかったところを褒める。(中)
- ・見本を提示してから活動に入る。(中)
- ・マット運動では手を着く位置に見てわかるポイントを示している。(中)
- ・ポートボールでは、学習カードを作成し、自分でどれくらいできたかわかるようにしている。(中)
- ・3年間を通して授業の流れを同じようにしている。(中)
- ・最後の振り返り、次回の予告は必ず入れるようにしている。(中)
- ・TVに授業の流れや活動のイラストなどを映し出し、視覚的に示している。(高)
- ・基本的な授業の流れは変えず、メイン活動の内容を少しずつ変えている。(高)
- ・本時の目標に加えて、単元を終えた時の目標も伝えるようにしている。(高)
- ・成功や完成例の掲示をしたり、行動や活動先を明示したりするようにしている。(高)
- ・授業の流れをナンバリングして伝える。(高)
- ・Keynoteを作成し、授業の最初に掲示して生徒と一緒に確認している。(高)



## (2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業展開

### 開を意識している

- ・待ちが難しい児童もいるため、みんなでできる活動内容の設定を行っている。(小)
- ・1年生の実態に合わせて、30~40分程度の授業展開にしている。(小)
- ・ボール投げでは、3つの実態別グループに分け、グループによって目標を分けている。(小)
- ・児童の興味関心のある題材を活用し、主体的に活動できるようにしている。(小)
- ・児童の実態に合わせて、複数の課題を設定している。(小)
- ・生徒の状態を見て、不調が多い時には活動量を減らしたり、調子が良さそうな時には活動量を増やしたりして、活動量の調整を行っている。(中)
- ・耳の聞こえない生徒がいるため、身振り手振りでの説明を心掛けている。また、サブの教員に個別に対応してもらっている。(中)
- ・生徒が好きなドッチボールや風船バレー、フライングディスクの的あてなど、生徒の実態に合わせて内容を工夫している。(中)
- ・個人戦やチーム戦で勝敗を意識できるようにしている。(中)
- ・説明が長くなりすぎないようにしつつ、動きすぎてテンションが上がりすぎたり、冷静さを失ったりしないように、(動)活動する→(静)向上のためのポイントを伝える→(動)活動するを繰り返し、説明と活動のバランスを考えながら授業を展開している。(中)
- ・興味を持たせるために、キャラクターを使ったり的を作ったり、活動の順番を挙手制にしたりして意欲を引き出せるようにしている。(高)
- ・ポイントを伝える場面ではゆっくりと丁寧に、練習の場面では繰り返したくさん取り組めるような活動を取り入れている。(高)
- ・効果音や音楽、映像(走る・歩く時の曲、成功時の効果音)などを活用している。(高)
- ・運動内容に合わせて、生徒に馴染みやすい例を挙げるようにする。(高)
- ・ハードル走では、高さやインターバルの距離などを段階別に設定した複数のレーンを準備する。(高)
- ・学年を実態に合わせたグループに分けて行い、それぞれのグループにあった課題設定をする。(高)
- ・確保したい練習時間を1回目からするのではなく、全6回なら回数を重ねるごとに増やしていくようにする。(高)



### (3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

- ・リトミックのつま先歩きや後ろ歩きは、KIDS の項目にあわせて活動を選定している。(小)
- ・スポーツを少しでも楽しんで行ってもらえるように、できた!を重視した授業内容を考えて、スモールステップで取り組んでいる。(中)
- ・「できる」「わかる」という経験を積むために、スモールステップを意識して課題を設定する。(中)
- ・体力を高める運動で筋トレを行う場合は家でもできるような簡単な内容にしている。(中)
- ・チームに分かれて、投げる順番を自分たちで決めたり、作戦を考えたりする時間を作る。(中)
- ・体育だから運動能力の向上だけに目を向けるのではなく、集団行動での自分の役割・立ち振る舞いについても学べるよう意識している。(中)
- ・友だちと協力して取り組むことで、思いやりの心を育てることについても身につけられるよう、人として成長させることを意識している。(中)
- ・重度グループのため、本来のルールを大きく変えるとともに使用する道具も異なる。しかし、一般的なルールや道具を認識してもらうために、卓球では授業では使用しないが、ラケットやネットなど実物を準備して、紹介する時間を設けている。(高)
- ・集団で行う授業のため、集団での活動で大切な点を意識できるように伝えている。(高)
- ・卒業後も少しでも楽しんで身体を動かしてもらえるように、体育が楽しいと感じてもらえるような取り組みを行っている。(高)
- ・卒業後を見据えて、生涯スポーツにつながるような内容にする。(高)
- ・体育には失敗や勝敗がつきものであり、それらに向き合う力や切り替える力が身に付くよう、言葉がけをしたり全体指導の際に伝えたりしている。(高)

### (4) その他

- ・「わかった」「できた」「またできた」など生徒の理解や成功にはとことん褒める。(高)



## 【07\_職業・家庭／作業】



### (1) 「学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

- ・視覚支援カードが多くなりすぎないように気を付ける。(小・中)
- ・グループによって見本と手順表、見本と実演などに提示方法を分けている。(中)
- ・振り返りはバタバタしてあまりできていません。最後に次回の内容を伝え、授業の始めに「どんな予告してたっけ?」と質問し、生徒たちから本時の内容を引っ張り出すようにしている。実演中心の説明なので、あまり視覚支援教材は作っていません。動画を撮るのは大変でなかなか…。(中)
- ・本時の学習内容として、黒板に学習項目を書いて授業の流れを提示している。(高)
- ・本時の目標を明確にすることで、授業内容の理解がかなり変わるグループでは、目標設定を丁寧に行い、最後の振り返りは個人の振り返りと全体の振り返りを行っている。(高)
- ・授業初めに、流れの説明と終わりに頑張っていたことを振りかえっている。(高)
- ・子どもが分かるカタチで授業の見通しをもたせるために、完成品を見せ、分解して、パーツに番号を入れている。(高)
- ・視覚支援で本時の流れを確認する。今日のキャッチコピーをつたえ、子どもたちと共有する。「やるときはやる!」みたいな。(高)
- ・順番に絵カードを貼っている。(高)
- ・子どもたちが分かるカタチで授業できるように、見本を提示したり、実演を行ったりしながら説明をし、本時の活動内容が視覚的にわかるように努めている。(高)
- ・活動の見通しが持てるように、作業の様子などの画像がある場合は、できる限り提示するようにしている。(高)
- ・生徒の様子を見ながら、作業内容が難しい場合は、内容を変更するなど柔軟に対応するようにしている。(高)
- ・連続2時間の授業でも、2時間目と3時間目のそれぞれで取り組む内容をその都度提示している。(高)

### (2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業

#### 展開を意識している

- ・できる限り待ち時間が少ないように活動を設定している。(小・中)
- ・子どもの興味関心のある題材として、実生活で使いやすいもの、コースターやトートバックなどを用意している。(中)
- ・集中できる時間は個人差があるので作品づくりは一つにせず、同時に2つ以上準備し、その日の調子で取り組む内容を変えることもある。(中)
- ・同じ作業長時間するのではなく、作業内容を2種類用意し、短時間で集中して取り組めるように時間配分を考える。シラバスに準じて衣生活、食生活、住生活で旬な話題を授業に

- 取り組むことがある。9月台風シーズン時に災害を意識した住まい方を考えるなど住生活分野と旬なニュースに合わせて暮らしを考えられるように考える機会を設定する。(中)
- 作業が早い生徒に廃棄物品の解体を依頼することがある。その際はあまり指示せず自分で考えて進めるようにさせている。悪戦苦闘するが本人たちは充実している様子。(中)
- 園芸にありがちな待ち時間を絶対に作らない。50分なにかしらの作業をしているようにする。(サブ教員に作業内容支援内容を伝える。)(高)
- 教材には子供の興味関心のある題材を活用するため、畑では苗植え、種まき、水やり、草取り、収穫。ものづくりでは、牛乳パックや廃材を利用し加工している。(高)
- 活躍する場面を1人1回はつくる。成功体験につながるように、たくさんほめる。(高)
- 子どもが主体的に活動するため、また、興味関心をもって活動するために、飛行機の型紙に自分で考えたデザインを描かせる回を設定する。(高)
- 子どもが主体的に活動できる時間をつくるため、危険ではない道具は自分たちで使わせている。(高)
- 子どもが主体的に活動し、興味関心をもちやすくするため、実態に応じた補助具を用いている。(高)
- 生徒の実態に合った課題を毎授業設定し、金曜5限という疲れがでる時間帯であっても集中して楽しく学べるように考えている。ゆっくりな生徒との差を埋めるように、課題量を調整している。(高)



### (3) 子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

- 園芸の授業で育てた作物を使って調理の授業で料理を作るなど、生活につながる授業を展開している。(小)
- 授業で学んだ内容が将来につながっていくように、B,Cグループでは1年時より卒業に向けて「あいさつを正しく」を続けている。(中)
- 家庭での生活(くらし)の中でできることを増やしてほしいことを念頭に授業で考えたこと(衣食住)を「自分の生活で振り返って考える機会」を設定している。(中)
- まつり縫いや並縫い、ボタン付けなど家庭生活につながる内容に取り組んでいる。(中)
- 目の前にゴミがあるのに気づかない人と一緒に暮らしたいか?ゴミを放置する人、すぐ拾って捨てる人、どちらがよいか?といった、「共に暮らす人としてどうよ?」という観点で問いかけることが多い。木目とマグロの切り身を関連付けて話したり、道具全般について家庭にあるものと共通する注意点の話をしたりする。少々木工が上手でも飯は喰えんということを強調している。(中)
- 作業の内容が上手かどうかではなく、どのように取り組んでいるか、意欲的に取り組んでいるかどうか、持続してとりくめているかどうかを意識して行っている。(高)



- ・授業で学んだ内容が将来にどうつながるか説明するために、作業と仕事を関係づけるようにして日頃から話をしている。(高)
- ・授業で学んだ内容が実生活や、将来につながるように、指で数える2進数の数え方でマラソン(ランニング)時に周回数を数えている。また、雲の形状・種類と天気の関係なども。(高)
- ・授業で学んだ内容は、思い出作りにしかなっていない。(高)
- ・職業教育として取り組み、卒業後のことや事業所で行う仕事内容など折に触れ話している。(高)
- ・事業所実習などに関連させて、卒業後の働く力を意識させて、課題に取り組ませている。(高)
- ・毎授業の初めに「仕事チェック表」に取り組ませ、忘れ物が1つもなくなった。(高)

#### (4) その他

- ・長期休暇の前に自分でできる家庭の仕事を考えさせて、自宅で実践する。そのことを振り返っている。(中)



## 【08\_道徳】

### (1)「学習の流れや活動内容など、子どもたちが分かるカタチでの授業の見通しを示している

- ・スライドなどで授業の流れを視覚的に提示するようにしている。(中)
- ・活動に取り組む際は、実物を用意し、前で教員が見本を見せるようにしている(中)
- ・火災避難訓練の際はスモークマシンを使う、実際の災害時の写真や動画を見せるなど生徒たちが実際の雰囲気を感じながら学習に取り組めるようにしている。(中)
- ・防災学習では、地震時に頭部を守るためのダンゴムシのポーズや、机の下に隠れて机の脚を押さえるなどの動きを3年間、授業や訓練時に何度も繰り返して練習している。(中)
- ・1つの単元(SST、防災、進路、性に関する学習など)を複数回継続して取り組み、毎回はじめに前回までの振り返りをしている。(中)



### (2) 子どもの実態に合わせた時間配分、静と動を取り入れたメリハリのある授業

#### 展開を意識している

- ・天気、小中ホールの人数等を見て、わんぱく広場(屋外)や小中ホールで遊ぶ時間を確保している。(小)
- ・講義形式だけでなく、防災での避難ルート確認や危険個所探し、進路学習での軽作業体験、防犯学習やソーシャルスキルトレーニングでのロールプレイなど動きのある活動を取り入れるようにしている。(中)
- ・性に関する学習や進路学習では、生徒の実態に応じてグループ別学習を行っている。(中)

### (3)「子どもに身につけてほしい力を意識して授業を計画している

- ・子どもが主体的に活動したり、給食の配膳の待ち時間に一人で静かに遊ぶおもちゃを準備したりしている。自分で片づけるまでを遊びとして声掛けしている。(小)
- ・学部として防災学習・進路学習・性に関する学習・ソーシャルスキルトレーニング(泊行事の事前事後指導)・防犯学習・スマホ学習・集団づくりなど3年間での取り組み内容をまとめ、計画的・系統的に取り組んでいる。(中)

- ・授業で学習したら終わりではなく、学習した内容が学校生活や家庭生活で取り組めるよう生徒たちに伝えている。また生徒たちがいつでも振り返りできるよう、学習した人との距離感やふわふわ言葉・チクチク言葉のポスターなどを各クラスに掲示している。(中)

#### (4) その他

- ・外部機関と連携する機会を設けている(防災学習での泉大津市役所危機管理課の津波出前授業、堺防災センターへの社会見学、進路学習での近隣商店の見学、福祉事業所の見学、和泉市役所の見学など)。(中)
- ・授業での取り組み内容を必要に応じて学年だよりで保護者に伝えている。(中)



### 3.伝わる教員の発信



#### (1) 声の大きさ、話すスピードやタイミングを工夫している。

- ・子供の意識が話者に向いてから話すようにしている。(小)
- ・早口にならないように落ち着いたトーンで伝える。(小)
- ・「設定によってはキャラクターに扮して演じながらしゃべる。(小)
- ・児童が全員座ってから話すようにしている。(小)
- ・動きを言語化して伝え、わかりやすく、楽しい雰囲気を取り組めるようにしている。(小)
- ・口形模倣や声量を意識できるように伝えている。(小)
- ・言葉の間合いを大切にしている。(小)
- ・音源は児童から離れた位置から流すようにしている。(小)
- ・授業の前日に声の大きさを確認している。(小)
- ・手遊びでは、大きめに難しそうに演じて出来たらほめる、くすぐるなど落ちをつけ、教員が児童の楽しみを作るようにしている。(小)
- ・児童からの発言内容について拾うもの拾わないものに気を付けている。(小)
- ・強弱をつけるようにしている。(小)
- ・もともと声が大きいが、さらに大きくなることもあるので気を付けている。(小)
- ・わかりやすい言葉を使うように意識している。(小)
- ・絵本は抑揚をつけて読み仕掛け絵本に注目できるように提示している。(小)
- ・体育の時には教科を意識するためはっきりテキパキ話すようにしている。(小)
- ・注目してほしいとき、大事なことを伝える時は、声に抑揚をつけたり、リズムをつけて伝えたりしている。(小)
- ・わかりやすい言葉で今日の頑張りポイントを伝える。(小)
- ・ポイントとなる言葉がけは統一した文言で伝える。(小)
- ・同じ流れを繰り返すことで見通しを持てるようにしている。(小)
- ・視覚支援カードを使う。(小)
- ・面白い興味深いと思ってもらえるように、話し方を変えてみるなど、声量や緩急は特に意識している。(中)
- ・普段声大きいのでささやくぐらいの小さい声で話したり緩急を意識させたりしている。(中)
- ・構造化したわかりやすい伝え方を意識している。(中)
- ・生徒が集中できるよう、話すスピードや声量、緩急などは意識している。(中)
- ・注意し続けることが課題である生徒が多いため、読み聞かせや課題に取り組む際の言葉がけでは、話者に注目しているか確認をしつつ、話したり、注目できていることを伝えたりするようになっている。(中)
- ・集中してほしいときはわざと小さい声でゆっくり話すようにしている。(中)

- ・生徒が集中するよう、間をおいて顔が上がるのを待つようにしている。(中)
- ・大事なことは一度だけではなく、大事なことから何度も繰り返し伝えるようにしている。また最後のまとめや振り返りでは、教員からではなく、生徒たちからの発言で終わるようにしている。(中)
- ・音楽は雰囲気や気持ちを高めるために頻繁に使用しているが、聴覚花瓶の生徒に配慮してあまり大音量にならないようにしている。(中)
- ・全体の時はマイクを使い、グループに分かれたときはできるだけ生徒の近くで指示をする。(中)
- ・マイクを使ったり使わなかったり、スピードや強弱、ジェスチャー等に変化を加えて、飽きさせない、興味を引くよう、伝え方を工夫している。(中)
- ・作業の内容や目当てが理解しやすいように、箇条書きにして板書をする。(中)
- ・意見が出たときにそれを拾い上げほかの生徒にどう思うかを聞く。(いい意味で)(中)
- ・見本を見せるときはできるだけ大きい動作で行う。(中)
- ・1時間で新しく覚えることは基本一つになるように調整している。(中)
- ・子どもの様子を見ながらわかりやすいように繰り返して伝える。(高)
- ・口頭で簡単に授業内容を伝えている。(高)
- ・口頭での説明だけでなく、すべきことを文字にして視覚的にも理解しやすいことを意識している。(高)
- ・順を追いながら簡潔にわかりやすい説明を心掛けている。(高)
- ・子ども自身が動かなければならない大切なところはゆっくりと繰り返して伝えるようにしている。(高)
- ・ゆっくりはっきり聞き取りやすい声量で端的に伝える。(高)
- ・グラウンド等広い場所ではマイクを使用する。(高)
- ・Keynoteの画面を見せながら今日の予定を確認している。(高)
- ・状況を見ながら待つようにしている。(高)
- ・言葉と言葉の間を切って話すようにしている。(高)
- ・聴覚過敏の生徒がいるときは座席の位置を変える等の工夫をしている。(高)



## (2) 指示や説明、発問の工夫

- ・身振りを交えて、順序だてて伝える。(小)
  - ・児童によって二択の質問や自分で考える質問をしている。(小)
  - ・動きを言語化する。(小)
  - ・児童の話をまとめて確認する。(小)
  - ・教室の環境を工夫し、なるべく静かな場所づくりをしている。(小)
  - ・自身の言葉で表現する機会を作っている。(小)
  - ・印象付けたい言葉を強調して言う。(小)
  - ・表情を豊かに発問している。(小)
  - ・端的に取り組む内容を伝えたり、作り方などを事前に見本で示したりしている。(小)
  - ・大切なことを伝える時はタイミングを見てゆっくり繰り返し伝えるよう心掛けている。(小)
  - ・課題に取り組む際は見本を提示するようにしている。(小)
  - ・簡単な言葉に絞り、しぐさや表情から気持ちを推測し代弁する。(小)
  - ・提示するカードには写真だけでなく、文字や数字も添えて伝えるようにしている。(小)
  - ・これからする流れを生徒に読んでもらったりして、手順をもう一度確認する機会を作っている。
- (中)
- ・生徒の聞く姿勢が整って言うのを確認してから伝えるようにしている。(中)
  - ・課題に取り組む際には、見本を提示したり一緒に手順を確認したりするようにしている。(中)
  - ・取り組むべき課題では、モデルを見せたり、思い出せるように言葉かけをしたりしている。(中)
  - ・冗句(あー、えーと等)は使わないように気を付けている。(中)
  - ・分かった人は挙手してという発問の仕方ではなく、全員が一斉に手を挙げるような発問を工夫している。(中)
  - ・生徒が発展や間違い、ヒントに気づく言葉がけをしている。(中)
  - ・全体指示だけでは理解が難しい児童生徒には全体指示の後様子を見ながら個別の確認や文字情報の提示をしている。(中)
  - ・できるだけ端的にわかりやすく伝えている。(中)
  - ・発問はできるだけ口頭だけでなくプリントやスライド図など視覚的に示しながら話している意味や意図を理解しやすいようにしている。(中)
  - ・プリントの画像は Google クラウドで配信し、授業中は TV に映すようにしている。(中)
  - ・話し合いや発問に対して生徒の発言した内容は、後で視覚的に確認や振り返りできるよう、できるだけ板書している。(中)
  - ・作業学習などでは、生徒たちの前で実物を使って見本を示したり、見にくい場合はスライドに実物の写真や動画を映したりして説明するようにしている。(中)
  - ・カードや教材を活用するときは、1人1セット+見本を準備するようにしている。(中)
  - ・その人に合わせて目の前で伝えている。(高)



- ・作業学習の際などに、指先を動物や日常生活でなじみのある言葉に例えて説明を行っている。(高)
- ・具体的に示したり、同じ言葉を繰り返したりしている。(高)
- ・指示の理解が難しい場合は、個別に対応したり、作業の中断を促し、注目させたり、確認を行っている。(高)
- ・授業の一斉の人数が多いので、口頭、板書だけでなく、テレビ画面であれば注視する確率が高いためケーブルをつないで画像・カメラ画像にして投影し、口頭説明を加えている。(高)
- ・黒板には必要なことだけを書くようにしている。(高)
- ・言葉だけでなく体の動き、表情を合わせて指示したり説明したりしている。(高)
- ・プリントや作業内容は一度に渡さず、分割して配布している。(高)
- ・黒板に『発表できた人』を掲示することで月に一回は発表できるようにしている。(高)

### (3) 視覚的にわかりやすく提示している(実物<写真<絵・シンボル<文字<言葉)

- ・提示物は興味を引くようにメニュー表風にするなど工夫する。(小)
- ・漢字を書く際には iPad を使って漢字の書き順の見本を示している。(小)
- ・フェルトで教材を作ったりしている。(小)
- ・動物になりきって体を動かす活動では、実際の活動やイメージを持てるように、動画を視聴する時間を設ける。(小)
- ・タブレットやテレビを使わない授業も大切にしている。(小)
- ・音源は活動の邪魔にならないよう Bluetooth でスピーカーにつなげている。(小)
- ・学年授業(大きい集団)の時には活動内容提示は最低でも A3 サイズを心掛けている。(小)
- ・活動に使うものは実物に近いものを用意して行く。(小)
- ・実態に合わせてジェスチャーやポイント(わかりやすい擬音語)で伝える。(小)
- ・キーノートを使って流れを示したり(アニメーション)、事前に教員がビデオで撮った見本を動画で示したりして、借りやすいようにしていた。(小)
- ・児童の実態を見て、必要であれば個人的に手順書を作成している。(小)
- ・教材は児童が触りたい、やってみたいと思えるような実物、またはそれに近いリアルなものを安心できる素材で準備している。(小)
- ・イラストや実際に前で手本を示している。(小)
- ・スピーカー等で BGM を活用し、終わりや始まりなど活動時間がわかりやすいようにしている。(小)
- ・イラストで順番を示しながら、見本を見せる。(小)
- ・自分の手元に書き込める教材が有効だと思うのでプリントを準備して授業を展開している。(中)
- ・英語の授業では歌を聴いたり、発音に注意したりして、生きた教材となるように工夫している。(中)
- ・写真や動画はテレビに映しイメージを作りやすくしている。(中)
- ・初めての活動については電子黒板に手順等を映している。(中)
- ・温度計を読むときには注目する場所がわかりやすいように、アルコール(赤い部分)が上昇するアニメーションをスライドに入れたりメモリに丸を付けたりするなどした後に練習問題をし、最後に実物で読み取る練習をすることで理解しやすかった。(中)
- ・課題の説明やプリント、授業で出た意見などは、板書や TV を活用し、視覚的にわかりやすいようにしているが、児童の実態上、あえて口頭のみで説明する場面も設定している。(中)
- ・机上の学習よりも、体を動かしながら取り組める課題を設定している。休憩時間を示す際にはタイムタイマー的なものを黒板に掲示し、音と色で分かるようにしている。(中)
- ・机上の学習よりも、体を動かしながら取り組める課題を設定している。(中)
- ・休憩時間を示す際にはタイムタイマーを黒板に掲示し得ると音で分かるようにしている。(中)



- ・Google クラウドルームを使って手元で資料を見られるようにしている。
- ・NHK for School の動画を活用している。(中)
- ・発語がない生徒には選択できるようなものを用意している。(中)
- ・足を置く位置に足形のポイントを置いている。(中)
- ・ポートボールのゲームの動きを映像で見せた。(中)
- ・コーンやマーカーを使用し、色別にするこことで、わかりやすくしている。(中)
- ・貸し出す定規や分度器は、測る位置や合わせる位置がわかるよう目盛りに印をつけている。(中)
- ・文章を読むのが苦手な生徒にはリーディングトラッカー、リーディングルーラーを貸し出している。(中)
- ・口頭説明が多いが、言葉だけで難しいようであれば、実物<写真<絵・シンボル<文字<言葉を逆にたどりながら示している。(高)
- ・プロジェクター、タブレット PC 等学習活動に応じて利用している。(高)
- ・図形や割引計算の学習では、視覚的にわかりやすいようにパワーポイントや TV を活用している。(高)
- ・調べ学習ではタブレットや TV を活用している。(高)
- ・作品課題に取り組む前に動画や Keynote を使い制作物について学習する時間を設けたり、見本を個別に提示し、確認しながら制作を促したりしている。(高)
- ・友人の作品例を画像に移して部分を拡大して見せたり、製作の工程を説明したりするのにテレビにカメラをつないで映して説明している。(高)
- ・運動内容に合わせた、生徒がなじみやすい例を挙げるようにする。(高)
- ・模範をすることで、意識を担当者に集中して真似をするようにさせる。(高)
- ・ICT 機器は使用したいが、こだわりのある生徒がいるので、できるだけ使わないようにし、実物の途中の作品を例として示したり、直接その時に全員の前で実践して見せたりしている。(高)
- ・タイムタイマーを活用している。(高)
- ・実際に作業している手元を映した動画を、一人一台のタブレット端末に入れ、常に目の前で流れている環境を作ることもある。(高)
- ・飛行機作りの際には完成した機体を事前に提示したり飛行機が飛ぶ仕組みなどを解説した動画の視聴をしたりした。(高)
- ・拡大イラストを用いて説明する際には一つの事に集中できるように、他をカットして情報を精選している。(高)



#### (4) その他

- ・できた作品はクラス内や外壁に飾り、他学年も見ることができるようにしている。(小)
- ・子どもの好きなものや興味関心のあるものをなるべく題材に設定している。子どもの知識の根とワークが広がるよう、他教科や以前の学習内容との関連を説明するようにしている。学習した内容や子どもの作品などを廊下に掲示し、授業以外でも学習内容に触れる場面を設定している。(中)
- ・制作活動が得意な生徒に、ほかの生徒への説明を依頼することで、生きる力を身に着けることを目指している。説明する側は説明の方法を、説明される側は説明の中から必要な情報を得ることを意識させる。(高)
- ・ゆっくり話し、伝え終えた後再度確認する。(高)

## 4. 協力できるチーム

(1) 指導略案などを活用して、サブ担当者に授業のねらいや内容、教員の動きを

共有している。

- ・指導略案を作成し、サブTと授業のねらい(児童ごろの目標)、流れ等を共有している。(小)
- ・学年の教員で、実際の場合、教材を使って子どもを想定してシミュレーションして授業内容を検討している。(小)
- ・座席位置や離席時の対応を共有している。(小)
- ・大人の欠員や補欠の調整や動きなど学年会や打ち合わせで確認している。(小)
- ・学年間で事前に指導案を元に共有し、座席位置や活動場所などをシミュレーションしている。(小)
- ・児童の実態や活動順のペアリングなど必要な情報交換をしている。(小)
- ・授業が成り立つか不安なときはいつも以上に確認したり意見をもらったりして協力してもらっている。(小)
- ・各授業のポイントを共有しやすいように強調している。学年会で打ち合わせする際にもポイントを伝えるようにしている。(小)
- ・主担とサブ教員と一緒に授業のねらいや内容、次回への反省点を話し合うようにしている。(小)
- ・協力して子どもを見られるように配置を伝えている。また、児童に対する言葉もなるべく統一で伝えるようにしている。(小)
- ・学年会や教科会で指導略案を共有している。(中)
- ・曜日で担当を分けている(サブTなし)ので、生徒の情報共有を密にしている。(中)
- ・授業おわりに次回への改善点を出し合っている。(中)
- ・略案を配布し、授業の流れや教員の動きなどを確認するようにしている。(中)
- ・サブ担当者と一緒に指導略案を確認したり、学年会で話し合ったりして、授業内容等を確認している。(中)
- ・必ず略案を配布している。また、どのような動きをするかなどの共有も行っている。(中)
- ・体育科を中心にグループ編成や生徒や教員の配置など共有している。(中)
- ・毎回指導略案を配布し、授業内容やどの生徒やグループについてもらうのかを示している。細かい指示は個別に伝えて、スムーズに授業が進行できるように工夫している。(中)
- ・生徒に説明する内容を聞いていれば、教員にも伝わる。細かいところや、どの生徒を重点的に見てもらうか、予め伝えるようにしている。(中)



- ・あらかじめ、課題内容や必要な支援について情報共有している。(高)
- ・口頭で簡単に授業内容を伝えている。(高)
- ・先にサブ担当へ、教室に入りにくい生徒の状況などを伝えている。(高)
- ・どのような課題を行うか、口頭で伝えている。(高)
- ・サポートが必要な生徒の側についてもらえるようお願いしている。(高)
- ・この生徒はこの部分がよいから、止めずにやらせてあげてほしいとお願いしている。(高)
- ・どんな表現(顔を青で塗ったとしても)をしても『変』とは言わずに、自由にやらせてほしいとお願いしている。(高)
- ・活動のゴールをサブ担当者に共有する。ゴールに向けた言葉がけを行う。(高)
- ・達成基準をわかりやすくサブ担当者に伝える。(高)
- ・毎授業、指導略案を出して共有している。(高)
- ・指導略案は必要なときに書いている。(高)
- ・移動やグループごとの活動が入ることも多いので、サブ教員に事前に共有し、対応する。(高)
- ・気を付けることなど、サブの先生にはできるだけ声をかけるようにしている。(高)
- ・必要に応じて指導案を作成し、共有している。ただ手指訓練は基本的に流れや工程を変更しないため、出していないこともある。(高)
- ・作業工程や注意点を理解してもらうために、一緒に試作品を作っている。(高)
- ・毎回の進め方をある程度固定して、やりながらサブの助言を取り入れ、アレンジを加えている。(高)



## (2) 学年会や担任とのやりとりなどで子どもの情報(特に支援が難しい、集中が

続かないなど)を共有している。

- ・授業中、眠ってしまう子や注意ひきをする子に、どの程度参加できたら OK とするかを共有しておく。(小)
- ・当日の様子などを授業前に伝えて対応している。(小)
- ・都度、授業の様子を情報共有している(小)
- ・他害、不安定、発作などの情報共有(小)
- ・クラスを超えて応援しあえる体制を事前に検討しておく。(小)
- ・学年会や放課後など、状況に応じて情報交換することを大切にしている。(小)
- ・ステップアップ課題の設定について、対象児童や課題内容の確認をしている。(小)
- ・授業後に児童や授業内容について意見交換を行い、次の授業での方向性を話している。(小)
- ・担任ではない児童の場合は興味関心のあるテーマや題材を聞いたりしている。(小)
- ・授業後に児童の様子を共有し、次の授業での教材提示の方法や言葉がけを改善するようにしている。(小)
- ・個別に担任とやり取りをして児童の苦手なこと、できるようになったことを共有している。(小)
- ・サブ教員と児童一人ひとりのねらいを共有している。待機につく教員は一人しかいないため、主担も児童待機の意識をもっている。(小)
- ・プールの時は念入りに情報交換し、それぞれの担当などを確認している。(小)
- ・授業のふりかえりを含め、話し合いをするようにしている。(小)
- ・自分の担任外の児童の授業を受け持つ際には、授業前の様子を聞く。授業中に気になることがあったときは、放課後担任に共有する。また、授業担当者とも授業中の児童の様子について細かく共有している。(小)
- ・児童ごとの特性やクラス内での支援法を学年全体で確認している。(小)
- ・学年会で児童連絡をする時間を作り、ルーティン化している。(小)
- ・担任の教員が作ってくれた「がんばりシート」に、本人が読めるように、その授業でがんばったことや改善点を授業後にひらがなで記入している。それにより、担任の先生や保護者に授業の様子を伝えることができ、ほめてもらったり励ましてもらえ、本人のやる気につながっている。(中)
- ・苦手な活動があり、なかなか学習に向かない生徒がいる場合は、その生徒の好きな先生と連携して頑張りを見に来てもらったり、授業後に頑張りを報告し、褒めてもらうなどの機会を作っている。(中)
- ・事前に授業内容を伝え、支援してほしいポイントを言っている。(中)
- ・特に気になる生徒は授業の前後で担任と情報共有している。(中)
- ・特に問題行動が多い生徒については様子を毎時間伝えている。(中)

- ・各授業で、担任が知らない画面、エピソードを伝えるように心がけている。(中)
- ・授業中の生徒の様子や振り返りノートの内容などは学年会や個別に担任と共有している。生徒の作品(作成したスライド)などは廊下に掲示し、教員や友だちから声をかけてもらい成果を実感する、本人が内容について説明する機会につなげている。作品や振り返りノートはタイミングが合えば、懇談等で保護者に見てもらい、子どもたちの変化や成長を見てもらおうようにしている。(中)
- ・学年会や立ち話などを通して、生徒の情報共有をしている。(中)
- ・授業でのエピソードを担任と共有し、次への支援に活かせるようにしている。(中)
- ・学年会で子どもの様子を話し合ったり、子どもの組み合わせなどをサブ担当者や他クラスの教員に情報を共有したりしている。(中)
- ・誰がどのような状態なのか学年や学部で共有している。(中)
- ・担任には学年体育での様子を伝えるようにしている(毎回ではない)(中)
- ・学年会だけでなく朝の打ち合わせや授業前の生徒の引き渡し時に共有している。(中)
- ・重度の生徒については、当日の調子やトイレの有無などを共有している。(中)
- ・授業内容を共有し、支援内容や課題が適しているかなど相談し、授業に取り入れている。(高)
- ・生徒の情報やその日の様子について、共有すべき内容は伝え合っている。(高)
- ・生徒が取り組んだワークシートなどの成果物を担任や学年教員と共有している。(高)
- ・気になった時は、その生徒の様子を担任に伝えている。(高)
- ・その日の授業であった内容で気になったことはすぐに報告するようにしている。(高)
- ・担任の先生に作品を見てもらおうようにしている。(高)
- ・iPadに執着する生徒に対して、担任とのその日の調子を情報共有して使用方法を考えている。(高)
- ・引継ぎのため、班ごとの活動や運動記録、達成状況等を残している。(高)
- ・学年会などで共有する以外にも、学年の体育科の教員で生徒の情報を共有している。(高)
- ・学年で生徒の情報は共有しているが、必要に応じて個別に確認し対応するようにしている。(高)
- ・学年会では生徒情報をデータ入力し、資料にしているため振り返ったり、授業前に確認したりできるようにしている。また普段から情報共有をこまめにし、その日の状況や不穏の際はその背景など細かいことでも情報共有している。(高)
- ・ワークプリントの結果一覧などの各担任にお伝えしている。(高)



### (3) その他

- ・授業準備や片付けをみんなで行う声かけをしている。(小)
- ・小学部の内部性が書いた作文など、成長した様子を小学部の先生に見てもらうようにしている。小学部の先生もその成長をよろこんでくれるのはとてもうれしいですし、子どもの励みになっていました。(中)
- ・様々な角度から学習して必要性を子どもが実感できるよう、取り組み内容(福祉制度など)は他教科(道徳・家庭科など)とも共有している。(中)
- ・教科会で他学年や他グループでの授業内容を紹介する機会を設定している。(中)
- ・プリントやスライドのデータを共有フォルダに保管し、共有できるようにしている。(中)
- ・同じ美術の教員同士、教材を共有し、制作方法を確認しあっている。(高)
- ・困ったことがある時は同じ教科を担当している先生方にアドバイスをもらうようにしている。(高)

